

受動喫煙

校長 新妻 茂

今年から受動喫煙防止のため連合運動会の会場に喫煙場所を設けませんでした。ご協力いただきました皆様には感謝申し上げます。また、清瀬トンネルの入り口にも受動喫煙防止の協力について掲示してあることにお気づきの方も多いと思います。これは村教育委員会事務局に対応していただいたものです。さらには船客待合所のくじらモニュメント近くの喫煙場所についても比較的子どもが多く集まる場所なので、検討をお願いしているところでもあります。

今年の4月1日に「東京都子どもを受動喫煙から守る条例」が施行されています。6月には受動喫煙防止条例が可決され、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの開幕前までには全面施行されることになっています。

子どもを受動喫煙から守る条例では、都民の責務として、「いかなる場所においても、子どもに受動喫煙をさせることのないよう努めなければならない」と努力義務を課しています。本校では平成28年度より敷地内全面禁煙を実施しています。

ここであらためて受動喫煙の危険性を確認しておきます。

タバコから立ち上がる煙（副流煙）と、喫煙者が吐き出した煙（呼出煙）を、非喫煙者が吸い込んでしまうことを受動喫煙（二次喫煙）と言います。喫煙者が直接タバコから吸い込む煙（主流煙）よりも副流煙の方が有害物質の濃度が高く、その種類は200～300と膨大です。そのうち、およそ60種類は発がん性を有すると言われています。また、呼出煙が目に見えなくなっても、喫煙後しばらくは喫煙者の呼吸から有害物質が排出され続けるという研究結果もあるようです。タバコの火が消えてなくなっても、喫煙後は目に見えない有害物質があらゆる場所に残っています。最近では、これを吸い込んでしまうことを三次喫煙といい、「残留受動喫煙」とも呼ばれています。タバコの煙は、喫煙者の髪や服に付着するのはもちろん、煙の漂う範囲にある壁や家具、カーテン、洗濯物などにも付着します。有害物質が少しずつ揮発し続けます。そのため、換気をして空気中の臭いがなくなったように感じて安心はできません。窓を閉めて外で吸っているから大丈夫という人がいますが、髪や服に付着した有害物質は喫煙者が入室すれば一緒に部屋の中に入ってきます。換気扇や空気清浄機の近くで吸っているので大丈夫だという人もいますが、煙を完全に排気することは不可能ですし、有害物質は室内に漂い、壁やカーテンなどに付着することになり、結局は受動喫煙につながるようになります。（教職員のための共済フォーラム No. 703 より抜粋）

受動喫煙による健康被害は、喫煙者と同じかそれ以上とも言われています。喫煙に関して、日本は今まで諸外国に比べて寛容すぎた面がありましたが、どうもそれでは済まなくなっています。島内の飲食店でも、お子さん連れの保護者の方も多く見かけますが、受動喫煙は大丈夫かなと時々心配になることがあります。また、アルバイトをしている高校生の姿も見かけることがありますが、その子たちにも配慮することが必要です。島の子どものための健康増進のために関係者各位にご配慮をお願いする次第です。

10月の主な行事予定

1日（月）振替休業日
2日（火）振替休業日
3日（水）芝生の日
5日（金）保護者会
12日（金）中間考査
15日（月）避難訓練
17日（水）芝生の日

19日（金）生徒会総会
24日（水）お弁当の日
26日（金）パラリピアン特別授業
29日（月）第2回進路説明会
※11月6日（火）から11（日）
学校公開・展示
※11月11日（日）学習発表会

硫黄島訪島事業

2年担任

2年生になってすぐ、4月から平和学習が始まりました。日本の戦争の被害を受けた地域調べ、夜明山戦跡調査、硫黄島訪島と、約半年にわたって戦争と平和について学習してきました。このような学習のできる学校は、全国でも小笠原中学校と母島中学校の2校しかありません。平和の大切さや戦争の悲惨さを学び、生命や平和を尊ぶ心を育むことを目的として、同じ小笠原村の母島中学校とともに、学習をしました。

訪島事業の初日は乗船後に旧島民の方の話聞く機会がありました。当時の硫黄島の様子や、疎開後の生活など戦時中の話を聞くことができました。硫黄島に暮らしていた時はとても幸せだったと言っていたことが生徒はとても印象に残っている様子でした。強制疎開で小学校にしっかりと通えなかったことを、今の自身の恵まれた環境と照らし合わせている生徒もいました。旧島民の方と直接話を聞くことで、調べたことやイメージしていたことに加えて確かな事実を知ることができました。



翌日早朝に南硫黄島を船上から観察しました。船上でのレクチャーを受けながら、未だに人が住んできた形跡が見つからない島に生徒は興味津々な様子でした。その後硫黄島沖にて洋上慰霊祭に参加しました。快晴で気温も高く、想像していた戦時の硫黄島と近い気象だったかもしれません。南硫黄島と比べて平坦な形状の硫黄島は、戦争で受けた砲火の跡を生々しく再現しているようでした。そして硫黄島を眺めながら、当時の少年兵が歌っていた「故郷の廃家」を歌い、誓いの言葉と千羽鶴を捧げました。その後は北硫黄島を観察して父島に帰島しました。

今回の硫黄島訪島事業で経験し、感じたことを伝えることが生徒のこれからの課題です。先ずはこれから4月から始まった平和学習をしっかりとまとめ、保護者の方、地域の方に学習発表会で報告すること、そして将来、多くの人たちに平和について伝えていくことを願います。

最後に、母島中学校と共同で作成した誓いの言葉を一部紹介します。

誓いの言葉（抜粋）

…（略）…

この硫黄島訪島事業についても学習しました。小笠原に住む多くの先輩たちが、硫黄島について知り、考え、伝え続けているのです。そして私達の番となりました。「考えた」ことを「伝える」ときが来たのです。僕たちは、硫黄島について知らない人たちに、戦争について伝えていかなければならないのです。下級生、地域の方々、自分の身の回りの人たちから、戦争を知らない他国の人々まで。どれほど戦争が残酷だったかを心に刻み、このようなことが二度と起こってはいけないということを、私たちは忘れずに生きていきます。

最後に学習を手伝ってくれた〇〇さんをはじめ、旧島民の方々、この訪島事業に関わっている全ての方々に、私たちにこのような機会を与えてくださったことを、深く感謝申し上げます。

硫黄島について調べ、硫黄島の日差しを受け、戦跡を目の当たりにし、戦争の悲惨さを身近に感じる事ができる私たち小笠原の中学生は、これから率先して戦争の恐ろしさと、平和の尊さを伝えていく使命があると思います。

私たちは、硫黄島や戦争について、「見て・知って・伝える」「知る・考える・伝える」という学習の目標を果たし、私たち自身もさらに戦争に対して知識や考えを深め、しっかりと向き合い、微力ながらも、平和な社会を築いていく担い手となることを誓います。

外来種駆除活動

1年担当

9月7日(金)外来種駆除活動のため、東平アカガシラカラスバトサンクチュアリに行きました。自然観察員の谷口さんからサンクチュアリができた理由やサンクチュアリへの入り方のレクチャーを受けた後、2班に分かれて、それぞれで駆除活動を行いました。

まずは、駆除の対象である「キバンジロウ」の見本を見せてもらいキバンジロウを探しました。キバンジロウとよく似た植物がたくさんありはじめは区別するのがなかなか難しかったようですが、みんな積極的に質問しながら、一生懸命にキバンジロウを駆除していました。他にも「アカギ」や「ホナガソウ」などの外来植物を駆除し、駆除した木々を見た生徒たちの満足そうな笑顔がたくさんありました。事前学習で外来種について学び、実際に駆除することで、より一層小笠原の自然に考える時間となりました。

小笠原諸島森林生態系保全センターをはじめ、協力してくださった方々ありがとうございました。



主権者教室

社会科担当

9月10日(月)に、3年生を対象に明治大学文学部の藤井剛特任教授をお迎えし、主権者教室を行いました。テーマは「選挙に行かないと損をする?」。若者の投票率が低いという実態が、若者にとってどのような影響があるのかということ、累積国債残高や「一票の価値」の金額を試算したものなど具体的な数値をもとに、分かりやすく授業をしていただきました。

生徒たちからは、「私が18歳になったら、『めんどくさい』などと思わず、しっかりと選挙に行きたいと思います。」「私の周りの大人は、皆選挙に必ず行っているの、自分もあと3年で投票ができると、楽しみにしていました。そんな選挙について、一票の価値や、党、立候補者の選び方などを具体的に指導してくださったため、選挙に自信を持って参加できそうです。」などといった感想が聞かれました。

選挙権年齢が引き下げられて3年生の生徒たちはあと3年後には選挙権を得ます。選挙ができることの意義をしっかりと理解して、正しく公民権を行使できる人になってほしいと思っています。

海洋センターボランティア

生活指導主任

9月8日(土)に、海洋センターボランティアを行いました。これは毎年、「ボランティア活動を通して、地域に貢献する意識やボランティア精神を高めること」「海洋センターでの活動内容を知ること」を目的として生徒会行事として行っているものです。昨年度は、台風の影響で実施できませんでしたが、今年は、海上保安庁の方々も一緒に、海岸清掃・水槽掃除・草刈・ウミガメの卵の移植という4つのグループに分かれて活動を行いました。

およそ1時間半、それぞれが一生懸命作業する姿が見られました。ボランティア活動後には、海洋センターの職員の方から「多くの人手があり、とても助かりました。」とのお言葉をいただきました。今年度も、当初の目的を達成することが出来たのではないかと思います。ご協力いただきました海洋センターのスタッフの皆様、ありがとうございました。

ブイ・フロート清掃

P T A 校外担当

9月22日(土)に、小笠原小学校の児童と小笠原中学校の生徒、保護者や地域の方々、教職員で力を合わせてブイ・フロートの清掃作業を行いました。晴天の中約1時間かけて、ブイ・フロートを丁寧に清掃しました。中学生は学年ごとに分かれてブイ・フロートの裏やつなぐロープをたわしやデッキブラシなどでしっかりこすり、汚れを落としていました。自分たちが使った物を自分たちで力を合わせて清掃するという小笠原小中学校の良い伝統を今後も続けていきたいと思っています。最後になりましたが、生徒が安全に青灯台で遊べるようご尽力いただいた全ての方に、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。



生徒会役員選挙

2学期始業式に、生徒会役員選挙の公示あり、およそ一ヶ月の生徒会役員選挙期間となりました。9月26日に立会演説及び投票が行われ、28日に結果が公示されました。

今回の選挙は信任投票となりました。立会演説では立候補者、応援演説者ともに真剣な演説をしてくださいました。投票では一人一人がしっかりと考えて票をいれることもできました。選挙の結果、新役員として以下の4人が決定しました。より良い学校にするため、応援よろしく願いいたします。

生徒会担当



小中高連合運動会

9月30日（日）の連合運動会を実施しました。生徒達へのご声援、ご協力ありがとうございました。

保護者・地域の方々へ

10月、中学校では「節目の月」となります。生徒会役員選挙を経て生徒会総会と、いよいよ3年生から2年生へのバトンタッチとなります。また、部活動も新キャプテンの下での活動になりました。そして中間考査。3年生は進路決定のときが近づいてきました。

生徒にとって、節目はまさに自分を伸ばす絶好の機会です。この機会を逃さず、成長ができるよう、学校として努力して参ります。併せて、ご家庭、地域の皆様のご協力もよろしく願いいたします。